

就労移行支援事業所「ジョブサポートセンター八幡」3年間の実践

ジョブサポートセンター八幡

森本 康文

I はじめに

ジョブサポートセンター八幡(発達障がいの方に特化)が平成25年4月に開設された。私事であるが、平成25年以前の5年間は精神障害の方たちの就労系の事業所に在籍したが、平成23年頃より発達障がいと診断された方の利用が増え始め事業所も狭く、作業活動も2~3種類の作業種を全体で活動するといった、いわば利用者個人のニーズに合わせた活動ではなく、事業所の作業種に利用者を合わせていくと言った形態であり、彼等の働きたいという将来を見据えた時に、このままでいいのかと疑問を持ち個性の強い発達障がいの方たちにとっては、より個人のニーズに沿った支援内容が必要ではないかと考え、現法人に私の考えたビジョンを訴え認められ開設に至った。

II 経過

平成25年4月より八幡東区中央町のレインボービルに事業所を開設するようになった。開設前にどのようなスタイルの事業所に持っていかをスタッフで検討。その頃、九州ではモデルと考える発達障がいに特化した事業所は見当たらず、関西方面に以前より実践されているという情報で大阪、神戸の2事業所の見学や職員を派遣しての勉強を積み、ジョブサポートセンター八幡のオリジナリティーを盛り込みプログラム作りをした経緯を思い出す。開所時は、利用者は1人、支援員5人という状態であり、この年の夏ごろよりPRの効果も出てきて定員の12名に達しました。26年3月には登録者18名に増加したことで事業所定員12名から18名に増員し支援員も7名になり、この頃より一般就労に結びつく利用者も少しずつ出始め26年度は7名、27年度はジョブコーチの資格を持つ支援者が加わり14名の方が一般就労、3名の方がA型事業所に巣立ち、企業定着率も91%と国の働き始めて1年間働き続ける統計結果の41%を大きく上回り、働き続けることができていることは私達支援者の事業所での訓練経過の質が問われることであり、今後も現利用者、就職者も含めた支援がスキルアップできるよう努力が必要と感じている。

III 3年間の振り返りと課題

この3年間で120名程の方が事業所見学に来所され、このうち60名の方がジョブサポートセンター八幡の就労移行に結びつき23名が一般就労に結びつきました。しかし、残り60名のうち少数とは思いますが、未だに社会資源との接点を持たなく引きこもり状態の方や、外に少しは出られるが生活面の課題の大きい方にとってはこの時点で就労を考えるのはハードルが高いと感じているレベルの方たちの存在があり、この点についての課題が表面に出てきている。この解決方法のひとつとして、アウトリーチを含めた自立訓練が必要である。この自立訓練と就労移行の連携が、発達障がいの方にとって分かり易い選択肢になるものと感じているし自立に幅広く、そして強く寄与できるものと思う。